

令和6年度 あま市地域公共交通会議議事録要旨

令和7年3月24日（月）

議題

- 1 あま市巡回バスの利用状況について（資料①、①別紙）
- 2 あま市における地域公共交通の今後のあり方について（資料②）

【主な意見等】

（1）あま市巡回バスの利用状況について

- ・他の市町の取組みを参考に真似から始める。
- ・あま市巡回バスの利用状況について、図1、図2とともに簡単な分析が記載されているが、これだけではデマンド型交通を検討するに足りる指標でない。他自治体の多くでは、交通計画策定のプロセスにおいて様々な角度から調査・分析した上でコミバスの見直し等課題解決に努めている。
- ・ルートの見直しによる対策を行う必要性について記載しているが、そのため、法協議会への移行、交通計画策定に関する協議、交通計画策定に係るアンケート調査など進める。
- ・利用者が増えていてとても良い。
- ・蟹江駅までルートに入っていることを初めて知った。自宅の近隣の方は蟹江駅に自転車で行っている人もいる。周りの知り合いにも聞いたが、バスのルートを詳しく知っている人はいなかった。
- ・バスのルートをよりわかりやすく周知させることで利用も増えると思う。再度バスのルートを認知してもらえそうなこともお願いできたらと思う。

（2）あま市における地域公共交通の今後のあり方について

- ・タクシー車両を使用しつつ、一定の前提条件の下では乗合事業の許可を要することなく、乗用事業（通常のタクシー）の相乗り運送が可能（国土交通省通達）。タクシーの相乗り運送については、メーター運賃を基本に利用者が乗車距離に応じて料金を各自負担することが認められている。
これとは別に、自治体のタクシー車両借上げ契約で乗合いバス（コミバス）の様に〇〇〇円/1人を利用者から徴収することも可能。
- ・乗用（タクシー）事業における相乗り運送は地域公共交通会議の協議（合意）を必要としないが、移動の足を確保する観点から地域公共交通会議で運行形態、運賃等の情報共有が必要

- ・デマンド型交通は乗り合って利用することで効率的な運行になる。人口密度の高い比較的狭いエリアにおいて効率的な運行が可能なのが最大のメリットである。デマンド型交通は、1人乗車のケースが比較的多い。エリアが広範に及びかつ利用者が少なく、エリア内に利用者が点在することにより非効率的な運行となり、結果的に予約しても利用できないケースが発生することがある。
- ・先に運行方式を検討することではなく、利用者数、対象者の範囲、移動の目的などを踏まえた上で、それに相応しい形を検討することが何より重要。
- ・民間バス路線や民間タクシーなど既存交通との役割分担を踏まえた交通ネットワークを検討する交通計画が必要と考える。
- ・デマンド型交通は、予約がなくても予約があった時に備えて車両と運転士を待機させる必要があること、その意味において実際巡回バスに比べて高くなることはあると思われる。
- ・また、デマンド型交通に空きタクシーを活用する方法が最も経費が削減できるかと考えるが、タクシーの手配等円滑な配車が可能かどうか、タクシー会社との調整など課題や検討事項も多々ある。
- ・デマンド交通については、運行方式によっては良いと思う。
- ・あま市には電車の駅が3か所もあり、名鉄バスもたくさん走っていて、横（東西）のつながりがあるものの、縦（南北）のつながりがほぼ無いため、南北をつなぐ役目になるような、あま市でシェアサイクルや、電動キックボードなどを活用するようなことができると、もっとあま市の観光にもつながり、若い方へのあま市への関心も深まるのではないかと考える。
- ・まず、地域においてどのような移動需要があるのか、地域にとってどのような交通網、交通体系が必要なのか、必要な交通体系を持続的に運営するためにどのような対応が必要か、といったことを多角的に検討した上であま市の地域公共交通の将来像、ありかたを想定し、それを踏まえて、それに適合した移動手段の導入を検討するべきかと思う。可能な限り、検討内容やあま市の公共交通のあり方を「地域公共交通計画」としてまとめられるべきかと思う。
- ・区域運行（デマンド）の導入検討に関しては、区域運行の特性を活かすことができる範囲が意外と狭いことも踏まえ、地域の交通に関する課題の解消のために、本当に区域運行の導入が最適か、といった観点からも検討を行うべきかと思う。
- ・地域で導入可能な移動手段としては、一般乗合旅客自動車運送事業（路線定期・区域）のほか、一般乗用旅客自動車運送事業の活用（タクシー運賃の一部を市が補助する等）、交通空白地自家用有償運送など、様々な形態が考えられる。また、各事業種別・態様の中でも、運営方法等様々な形が考えられる。地域公共交通計画の作成いかに問わず、一度あま市の移動需要等を把握し、最適な交通体系・交通網はどのようなものかを検討した上で、運行する事業・形態を選択する形がよいかと思う。
- ・巡回バスは、自宅からバス停までの距離が遠く、利用しにくい高齢者がいる。
- ・デマンド型が、移動したくてもできない人の助けになると思う。バス停を細かく

設置して、アプリ、電話などで手軽に呼び出し、必要な方が効率よく移動できるので、無駄がなく使いやすいと思う。

- ・今の定期運行、デマンド運行、その両方の並行運行と期待しているが、経費のこともあるが、障がい者や高齢者が乗車することが難しくならないことを望む。スマホだけの申込になると苦手な方が多くいると思う。
- ・巡回バスの利用者が増加傾向であり、デマンド交通の導入に際しては、対象地域、対象者の範囲を十分検討すること。
- ・名鉄バスやタクシー事業者と事前協議を行うこと。